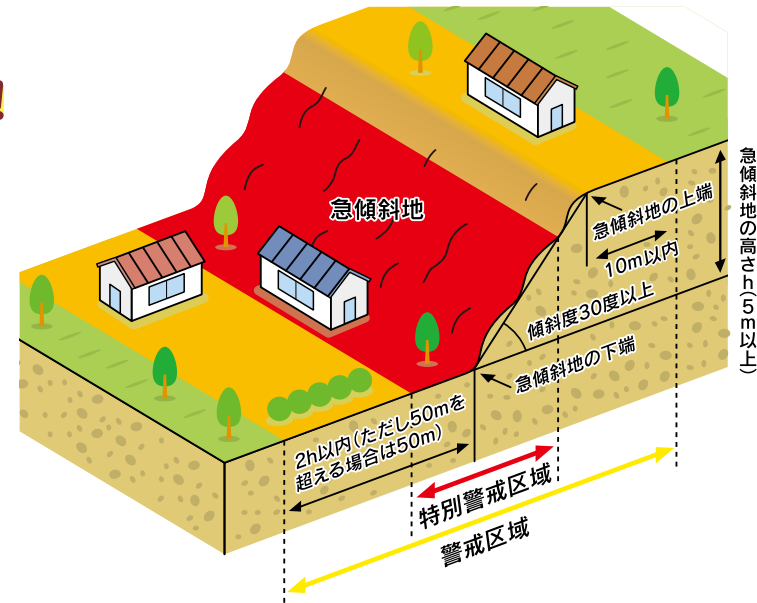


土砂災害警戒区域を確認しておきましょう!

- 黄色で囲まれた範囲(土砂災害警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域」です。
- 赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域」です。

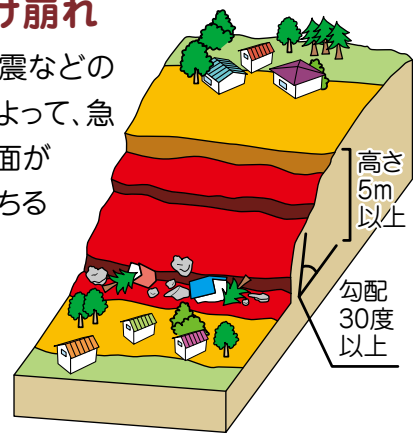


土砂災害の種類と前兆現象

警戒区域 特別警戒区域

■ かけ崩れ

雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。

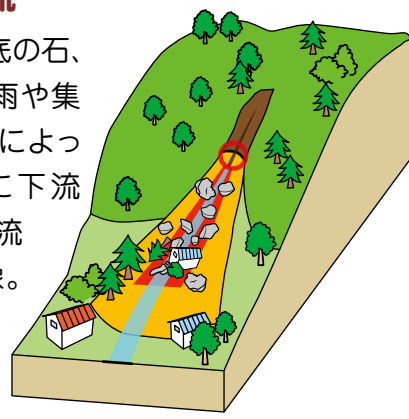


このような前兆れに注意

- がけから水がわき出ている。
- がけから小石がバラバラと落ちてくる。
- 地鳴りがする。
- がけにひび割れができる。

■ 土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象。

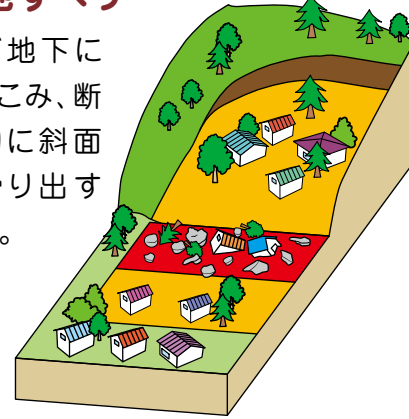


このような前兆れに注意

- 山鳴りがする。
- 川の流が濁り、流木が混ざり始める。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

■ 地すべり

雨が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



このような前兆れに注意

- 地面にひび割れができる。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふき出す。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状態で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難勧告や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

土砂災害警戒情報が発表されたときは、いつ土砂災害が起きてもおかしくない、非常に危険な状態です。土砂災害の前兆現象を感じたら、早急に避難をしましょう。

■ 気象庁等による気象情報

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがある状況

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがある状況

さらに大雨が続くと

土砂災害警戒情報

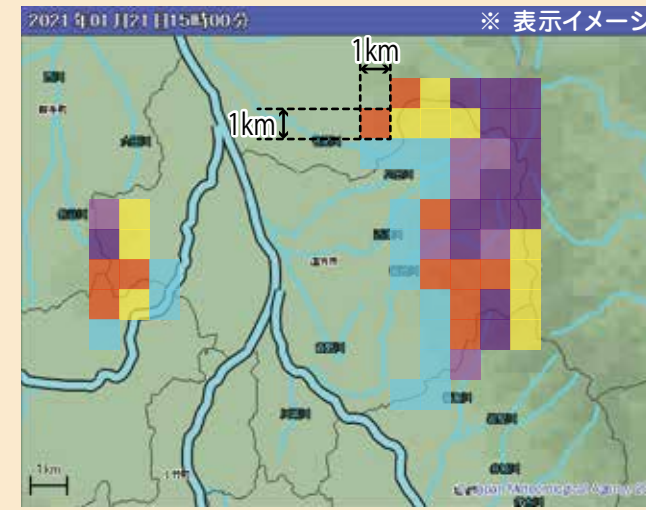
大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、都道府県と気象庁が共同で発表

■ 大雨警報(土砂災害)の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

土砂災害の危険度の高まっている地域を1km四方の領域ごとに5段階で色分け表示しています。

避難にかかる時間等を考慮して、2時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、大雨警報(土砂災害)、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



色が持つ意味	説明
極めて危険	過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する状況。命に危険が及ぶ土砂災害が すでに発生していてもおかしくない 。この状況になる前に避難を完了しておく。
非常に危険	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況。遅くともこの時点で 速やかに避難を開始する 。
警戒(警戒級)	避難の準備を終え、早めの行動を心がける。 高齢者等は速やかに避難を開始する 。
注意(注意報級)	メッシュ情報をこまめに確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

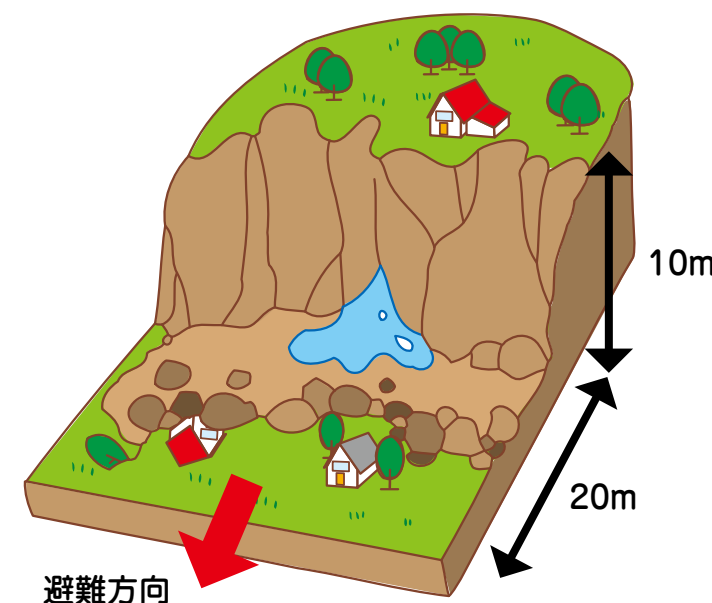
「極めて危険」(濃い紫色)が出現すると、命が奪われるような土砂災害がすでに発生していてもおかしくない状況となります。このため、高齢者などは遅くとも「警戒」(赤色)が出現した時点で、一般の方は「非常に危険」(薄い紫色)が出現した時点で、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ速やかに避難することが大変重要です。

また、このメッシュ情報に関わらず、市から避難情報が発令された場合は速やかに避難してください。

土砂災害における避難のポイント

■ かけ崩れのおそれがある場合

一般的に、かけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



■ 土石流のおそれがある場合

溪流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとて速いので、土石流を見たら、流れと直角の方向に逃げましょう。また、土石流が曲がる箇所では、かなり高い位置まで土石流がかけ上がるので、曲がりの外側のほうが内側より危険性が高くなります。

